

第6回 川越市総合計画審議会 事前意見への回答

分野	No	意見	対応・見解
		<p>5 - 1 地域産業の活性化と商工業の振興 施策の目的及び成果指標 【成果指標】について 市内総生産額 R3年14,651億円に対してR12年16,000億円と目標値を設定しています。</p> <p>1 これは国民総生産にあたる市の指標でしょうか？ であれば税収を上げていくという計画なのでしょうか？ またR6年からR12年までが年率1.5%成長、R12年からR17年までが年率2.5%となっていますが、R12年で市内総生産を増加させる施策が機能するという計画なのでしょうか？ 日銀インフレ目標値2%に対して+αが市の目標値になるイメージなのですが、目標の考え方をご教授お願いします。</p>	<p>「市内総生産」とは、ご意見のとおり、国内総生産（GDP）の市分にあたるものです。これは、市内で1年間に生み出された「付加価値」の合計であり、付加価値とは、経済活動が行われた結果として生産された財貨・サービスの「産出額」（出荷額、売上高など）から「中間投入」（その生産に要した原材料費や光熱費など）を控除した額、つまり新たに作り出された価値となります。</p> <p>税収を上げていくという計画ではありませんが、市内総生産額が増加することにより、結果として税収の増加につながるということは想定されます。</p> <p>年2%程度の増加については、これまでの増加割合を踏まえたうえで、企業誘致や創業支援などの施策に取り組むことにより、達成したい数値目標として設定したものです。</p>
5 産業・観光	2	<p>5 - 1 地域産業の活性化と商工業の振興 施策の方向性 3 企業誘致・創業の推進 について</p> <p>企業誘致に対しては方向性なく誘致していくと関連性相乗効果が生まれにくい特徴のない産業地域になる恐れがあります。川越市の特徴を作るためにある程度は川越市が将来的にどのような産業で繁栄したいかの方向性の青写真が必要だと思います。この点についての計画はあるのですか？ また、誘致される企業側にとっても川越市に来る魅力が必要になりますが、どの様にアピールする計画でしょうか？</p>	<p>本市の企業誘致の方向性については、令和4年度に国が主催する政策立案ワークショップに参加した際に、本市の地域経済循環構造と産業構造を分析し、本市の地域経済循環を向上させ経済全体を活性化させる産業を分析しました。本市の地域経済循環構造は、市内で生産された付加価値額が所得に分配される段階で地域外からの雇用者所得の流入により増加しますが、民間投資が流出し地域際収支が赤字であることから支出の段階で所得が流出しています。こうしたことから、付加価値額・労働生産性・純移輸出入額・事業所数・従業者数・影響度・感応度等の指標を分析することで、本市の牽引産業を「化学工業」、「業務用機械器具製造業」、「食料品関連産業」と位置づけ、本市の企業誘致施策に反映してきました。今年度においては、上記指標を最新のデータで分析し直し、PESTや3C等のフレームワークを用いてマクロ・ミクロ的な環境変化の観点から成長が見込まれる産業や県が注力する産業を併せて分析することで本市が注力すべき産業の見直しを行い、本市への企業立地相談状況や企業ニーズ調査結果等を加味することで、誘致の実現性がより高い産業を絞り込んで具体的な企業誘致施策に反映していきます。</p> <p>本市の魅力をどのようにアピールするかについては、本市は首都圏の巨大マーケットのほぼ中央に位置しており、高速道路や鉄道などの交通網の充実、複数の産業団地を有し製造出荷額が県内でも上位に入る産業集積地、大学や高校をはじめとした教育施設が充実した文教都市であることが本市の魅力として挙げられます。こうした魅力を、市の公式ホームページをはじめとして、企業誘致パンフレットやトップセールスによってアピールしていきたいと考えています。</p>
	3	<p>5 - 1 地域産業の活性化と商工業の振興 3 企業誘致・創業の推進 2 地域経済の新たな活力を創出するため、関係機関と連携し、創業希望者のニーズや成長のステージに応じた創業支援の充実を図ります。 について</p> <p>創業希望者を増やすことも必要になると考えます。 創業に対しては会計知識、創業起業知識、事業知識、投資知識が必要になると考えますが、川越市としてこのような教育は早い段階から行っていく計画はあるのでしょうか？</p>	<p>本市では、国の認定を受けている「創業支援等事業計画」に基づき、創業を希望する人や創業後間もない人に対して、川越商工会議所などの創業支援機関との連携による創業支援事業を実施しています。このうち「特定創業支援等事業」として実施する「創業スクール」や「創業ワンストップ相談」などにおいては、経営・財務・人材育成・販路開拓に関する知識を習得できるよう継続的な支援を行っています。</p> <p>また、令和6年7月に「川越市内における創業支援等に関する事業連携協定」、令和7年4月に「地域の中小企業者の持続的成長支援等に向けた連携協定」を締結しており、創業支援機関の連携を強化し、新たな事業などにも取り組んでいるところです。</p>

分野	No	意見	対応・見解
5産業・観光	4	<p>5-3 農業の振興</p> <p>世界農業遺産として認定されている落ち葉堆肥農法について言及していただきたいと考えます。世界農業遺産の活用や後継者・人手の確保、農法への理解、関連市町との連携など、まだ多くの課題を残しており、川越市としても世界農業遺産に、より積極的に関与していくことが望ましいと考えます。</p>	<p>落ち葉堆肥農法につきましては、計画案の中では、施策の方向性 3 - 3 において示している「伝統的な手法」として、より広い内容を含む言葉で表現しています。標記については、わかりやすさを考慮しながら検討したいと考えます。</p> <p>また、落ち葉堆肥農法の各種課題につきましては、本市を含む世界農業遺産武蔵野の落ち葉堆肥農法推進協議会（川越市、所沢市、ふじみ野市、三芳町、埼玉県川越農林振興センター、いるま野農業協同組合）にて各種イベントへ出展してのPR活動や農法維持に係る補助金交付（毎年度上限額1万円）等を行っております。</p> <p>本市の活動といたしましては、落ち葉堆肥農法を実践している農業者の新たな掘り起こしや、落ち葉掃き体験の継続的な取組と併せグリーンツーリズム拠点施設と連携して落ち葉堆肥を使用した栽培体験等の実施、農業まつりでの農法PR活動などを行っております。</p> <p>なお、市独自の実践農業者への直接支援といたしまして、令和6年度より「ナラ枯れ防除対策」の支援を行い、平地林の保全及び営農環境の維持を図っているところでございます。今後も協議会を構成する市町等と連携を図るとともに、新たな支援策を検討してまいりたいと考えております。</p>

分野	No	意見	対応・見解
5 産業・観光	5	<p>5-4 観光振興</p> <p>オーバーツーリズム、インバウンド急増、少子高齢化、円安、観光客のマナー問題、民泊マンション問題など、観光を巡る昨今の状況は、これまでの日本の観光では直面したことのなかったような様々な問題に囲まれており、今後も予期せぬ問題が突如として生じることが想定されます。川越もまた、一番街を中心として、オーバーツーリズム気味の状況を経験しており、こうしたことから、観光＝悪、というイメージを持たれている住民も少なくないのではないかと考えられます。日本、そして川越の観光は今、大きな局面を迎えています。</p> <p>しかし、川越の知名度は全国区であり、多くの方が一番街を訪れているように、これからの川越の発展において、観光を否定することは難しいだろうとも思います。</p> <p>こうした状況の中、今回の総合計画は、今後中長期にわたって、川越において行政はどのような方向に観光の舵を切っていくのか、あるいは観光をどのような方向に導いていくのかを示す重要な指針になると考えます。</p> <p>従って、今必要とされる観光政策は、従来の観光政策の連続性の上に立つものではなく、革新的であるべきだと考えます。現状の課題を解決するだけでなく、より長期的な視点から川越観光を根本的に創造し、次世代へと継承していくことが重要ではないでしょうか。観光は地域経済の活性化のみならず、様々な面に良い影響を与える特徴を持っていますが、観光の持つポテンシャルを最大限活かすには、戦略的に、観光をツールとして用いる視野の広さが求められます。</p> <p>そこで、施策の目的（目指す姿）として、川越観光を再編集・再構築（リデザイン）することを提案します。</p> <p>消費型で経済志向の川越観光の実態から脱却し、新たな「川越観光」の姿を描き、実現に向けた施策を展開していくことが、川越観光自体の持続性、そしてその前提としての、川越という地域の持続性に資するものと考えます。</p> <p>施策の方向性としては、次のような項目を取り込んでいただきたく存じます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新たな川越観光の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・消費型から創造型へ。一過性の来訪客ではなく川越ファン、関係人口づくりを目指す観光 ・事業者中心から住民中心へ ・利益重視型から還元重視型へ <p>そして、川越の持続性を高めるような観光に向けて動いていくことが重要です。地域の持続性とは、地域社会・地域環境・地域経済という3本の持続性を高めることによって実現可能になるため、</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 地域社会の持続性向上に資する観光の実現 <ul style="list-style-type: none"> ・観光振興による恩恵を市民全体で共有できる仕組みづくり ・市民の観光に対する理解や関与の促進 ・観光振興を通じた地域課題の解決 ・地域住民に対する観光教育を通じたシビックプライドの向上 3. 地域環境の持続性向上に資する観光の実現 <ul style="list-style-type: none"> ・事業者や観光客の環境や地域配慮に対する意識向上 ・農地や自然、文化財や伝統文化などの保全と適切な利用 4. 地域経済の持続性向上に資する観光の実現 <ul style="list-style-type: none"> ・市内における経済循環の向上 ・外部事業者からの開発・事業圧力に対する地域の対応力向上 <p>といった内容が施策の方向性に盛り込まれることが重要です。さらに、上記の実現にあたっては、観光振興の体制強化が必須となります。したがって、</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 地域を持続可能にするための観光振興の体制づくり <ul style="list-style-type: none"> ・観光財源の確保 ・行政と民間組織の適切な役割分担の検討・推進 ・観光専門人材の育成 ・観光状況の適切なモニタリングと生じた課題に対する柔軟な対応体制の構築 <p>が必要です。</p> <p>細部に亘るため、一部は分野別計画である観光振興計画に委ねるべき事項もあるかもしれません。しかし、総合計画の大きな方針としても、従来の川越観光とは異なる、新たな方向性を示していくというメッセージを打ち出すことが、観光に対する市民理解を得ていく上でも重要ではないかと考えます。</p> <p>上記の内容に合わせて、施策を取り巻く状況の修正や、成果指標の再検討を求めます。成果指標については、市民の観光振興に対する重要度や満足度などが重要だと思われれます。</p>	<p>御意見いただいたとおり、外国人観光客の増加やオーバーツーリズムなど本市の観光を取り巻く状況は変化しており、これまでの取組を継続するだけでは、課題への対応が難しい状況にあると認識しています。</p> <p>総合計画では、ご指摘いただいた市民の満足度なども意識し、市民生活と観光の両立や、市民との協働・交流といった方向性などを示したところです。今回ご提案いただいた内容については、総合計画の中で、より明確に方向性が示せるよう一部修正を検討するとともに、個別計画である観光振興計画の中で踏まえるべき内容も多いと考えますので、現在策定作業を進めている次期観光振興計画においても議論していきたいと考えております。</p>

分野	No	意見	対応・見解
3 教育・文化・スポーツ	6	<p>施策3-1 生きる力を育む教育の推進 施策を取り巻く状況 ①グローバル化や技術革新が急速に進み、変化が激しく将来の予測が困難な時代となる中で、社会が直面する課題を自らの課題として捉え、他者と協力しながら解決し、未来を切り拓いていく力が求められています。子ども達がこうした資質を身に付けられるよう、国は、一人ひとりの能力や適性に応じた「個別最適な学び」とについて</p> <p>インタネット時代で知りたい情報の大半がインタネット上にあるがそこにたどり着くのに大変だったのが、Googleなどの検索の向上やChatGPTなどのAIの出現によりより情報を集めやすくなりました。国語、算数そのものであれば生徒がやる気になれば学校+自己学習で向上できる世界になっていると思います。</p> <p>今後大切なのは国語、算数への興味・好奇心自体を持たせること検索やAI、そして人に対して自分が必要となる情報を引き出すための質問力（しつもんりょく）向上がとても大切であり、質問力の差で得られる情報の格差が生まれています。</p> <p>この2つを育むための施策検討は計画にあるでしょうか？</p>	<p>本市では、国語や算数等における興味・関心を高めるために、授業の基本形である「川越授業スタンダード」の取組を進めております。</p> <p>一時間の授業の中に、めあて、見通し、学び合い、まとめ、振り返りの学習過程を位置づけている「授業スタンダード」の推進により、教員の講義中心の授業から、児童生徒が主体的に学ぶ授業へと転換し、児童生徒の興味・関心を引き出すことを目指しています。</p> <p>また、児童生徒は他の児童生徒や教員との対話を通して、自分自身が必要とする情報を引き出すための質問力の向上につなげているところです。</p> <p>引き続き、学習者用コンピュータの活用や他者との対話等により、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させながら学び合う児童生徒の育成に努めて参ります。</p>
	7	<p>施策3-1 生きる力を育む教育の推進 2 豊かな心と健やかな体の育成 1 子ども達の自己肯定感を育むため、について</p> <p>自己肯定感を育むためには具体的に何が必要か教えて下さい。</p>	<p>自己肯定感を育むためには、例えば、子どもが自分で立てた目標達成のために努力したところを褒めたり、子ども達が話し合いを通して互いに認め合うことができるようにしたりするなど、子ども自身が自分の取組や存在に自信を感じられるようにすることが自己肯定感を育む一つになると考えます。</p>
	8	<p>施策3-2 施策の方向性1の2：主体的・対話的に学ぶ学習の展開など絶えず指導方法の工夫改善が求められている状況から、「教職員が、子ども達に向き合う時間や授業改善・自己研鑽の時間」としたらどうかと考える。</p>	<p>授業改善に向けた授業準備の時間や、生徒指導対応のために教職員間で話し合ったりする時間は、「子ども達に向き合う時間」に含むものと考えています。また、「自己研鑽」の時間には、勤務時間外の研修会や勉強会へ参加する時間や、自身の知見を深め、人間性を豊かにする体験を積む時間などが含まれると捉えております。計画上の表現については、わかりやすさ等を考慮して検討いたします。</p> <p>また、教職員がそのような時間を確保できるよう、いただいたご意見を踏まえながら、教職員の事務負担を軽減できるようにしてまいります。</p>
	9	<p>施策3-2 教育環境の整備・充実 ③学校教育には、子ども達が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人ひとりの資質や能力を伸ばすという特質があります。</p> <p>について</p> <p>「多様な考えに触れ」が重要な項目の一つだと感同じます。</p> <p>数十年前の様に日本国内である程度クローズできる時代であれば川越市内の同級生が集まる事で多様性を学ぶのに充分だったかもしれませんが、現在の様に日本国内でクローズできず事業、教育、社会コミュニケーションがボーダレス世界ではもっと多様な考えに触れる事も必要になると考えます。</p> <p>国内でも地域性の違うエリアの学校とのオンライン交流や海外とのオンライン交流などを含めて「多様な考えに触れる」ための施策などを検討する計画はあるでしょうか？</p>	<p>自分自身の周りには多様な他者が存在し、同様に、多様な考えも存在するということを協働的な学びを通して体験できるように教育活動を展開してまいります。また、多様な考えに含まれる異なる価値観についても受容し、互いに認め合える意識を低学年の頃から醸成できるようにし、支え合い助け合える教育活動を充実させてまいります。</p> <p>また、オンラインでの交流については、市内の学校間において、児童会や生徒会の取組をオンラインを通して交流したり、外国語活動の中でAETのご家族とオンラインでコミュニケーションを図ったりする取組などがございます。これらの取組も、現状、各学校単位の取組であるため、今後、国内外へさらに範囲を広げ、様々な交流が図られるよう、他市の状況等を研究してまいります。</p>
	10	<p>施策3-2 教育環境の整備・充実 ③学校教育には、子ども達が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、 について</p> <p>多様な考えがある事をしっかり教えて欲しい。</p> <p>まず子供自身が持っている価値観があり、その価値観と全く同じ価値観の同級生など存在しない。だけど価値観が同じ部分が多かったり、価値観が違う部分が多かったりとまちまちである。価値観が違う部分が多いからといって否定すると争いやいじめになるという事を教えて欲しい。</p>	
11	<p>4 市立川越高等学校の特色ある教育の充実 (企業) 誘致する事によって本市に特色と経済効果を出す企業種の選定をし、その企業種で働くのに特化した教育という連携の考慮もお願いします。</p>	<p>企業誘致とその効果による本市のさらなる発展に寄与する人材育成のために、生徒の視野を広げ、進路や就労などに向けて探究を深めていけるような体験を伴う学びを今後目指してまいります。</p>	